

行政視察

小中一貫校視察

安平町早来学園視察

令和5年10月16日

6年前の平成30年9月、震度6強の胆振東部地震として安平町は激甚災害となった。そのため、早来中学校が使えない状態となり、老朽化する早来小学校と一体校舎新築となり、義務教育学校として、目指すことになった。

令和5年4月早来学園として新しい義務教育学校として誕生。

早来地区には三つの小学校、一つの中学校、在籍生徒は、初等部1〜4年生、中等部5〜7年生、高等部8・9年生の計309名。

・早来学園の教育の考え  
・新しい学校コンセプト  
『自分が『世界』と出会う場所』

自然・地域・文化・人に触れ、学校を通して異年齢多世代のたくさんの人達と出合い、多様な価値観や多くの学び・夢と出会える学

校とし、子ども中心に、人々がつながり、自分の世界を広げ、互いに学び合える学校

・空間や年代を隔てない「分けない学校」

学園は子どもと子ども、地域と子どもを分けない。地域みんなので子どもを育てる。

・誰もが使えるみんなの学校

地域の人も使える学校で、地域開放区域を設け、ここで自分と違う考え方に触れ、様々な人との出会いがある。幌延町も小中一貫校の建設に向け強力なチーム体制を作ることが必要と感じた視察であった。

雨竜小・中学校

令和5年10月17日

10月17日に雨竜小・中学校を訪問し、議会正副議長、各委員長、教育長及び担当課長並びに小中学校の校長、教頭に対応していただき、小中一貫校に関する説明を受け、その後、学校施設を見学した。

小学校の耐震化が難しい



小中一貫校視察（早来学園）

ことから、中学校に小学校を併設し、小中併設型学校としてスタート。令和2年から小中一貫校として9年間のカリキュラムを編成し、教育活動を展開。令和3年に前期・後期制を試し令和4年から本格実施となった。2学期制を採用することで先生の負担が減り、子ども達への教科指導の充実につながった。

小中一貫校とした経緯は、財政悪化により行政改革を行い、校舎を一つにして維持管理費の削減に努めた結果、ランニングコストが半減し、教育内容の充実に掛ける予算を増やすことができた。

第18回原子力機構報告会（東京都）に出席

11月14〜16日の日程で東京都で開催された原子力機構報告会に西澤議長、無量谷議員、植村議員、深澤議員、岡田事務局長が出席した。

14日 稚内空港を出発し、雪のため30分遅れで羽田空港到着。その後、原子力機構東京事務所を表敬訪問した。堀内理事等と懇談し、意見交換をした。

15日 13時30分から開催された原子力機構報告会に出席。

小口正範理事長による基調講演「ニュークリア×リニューアブルで拓く新しい未来」から始まり、ゼロカーボンエネルギー研究所の加藤之貴所長による特別講演「水素社会の実現に向けて」を拝聴した。

その後、高温ガス炉プロジェクト推進室の板場成昭室長より「水素社会の実現に向けて」、原子力基礎工学研究センターの菅原隆徳研究主幹より「放射性廃棄物を資源に変える技術革

新」が報告された。報告会には、2000名の会場入場者のほか、150名を超えるオンライン参加があった。

報告会の会場には、原子力機構の施設が立地されている六つの町村の観光紹介ブースが設けられ、幌延町からはトナカイの角細工やミズナラ樽の熟成ワインなどの特産品が販売された。また、成果展示会場では、幌延地下研究施設も紹介されていた。



小口理事長による原子力機構報告会基調講演